

平成23年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（春季）

国際知的財産法

Q大学の、2010年度の入学者を選考するための入学試験（2010年2月に実施）において、ある一つの問題は、Q大学に勤務する教授であるA氏の論文（入学試験が実施された段階では、まだ、雑誌等において公表されてはいない）の一部を、A氏の了解を得たうえで、約10,000語にわたり引用したうえで、受験生に対して、その論文を論評することを求めるものであった。

従来、Q大学は過去の入学試験問題を公表していなかった。しかし、Q大学は、2010年5月に、過去の入学試験問題を公表するという内部決定を行った。そこで、上記の入学試験問題は、2010年7月に、Q大学のウェブサイトに掲載され、一般に公表された。

なお、この論文は、A氏が企業Pと共同研究中の新しい眼科手術の方法を示すものであった。また、企業Pは、この新しい眼科手術の方法を、一般的な水準の眼科医が利用できるようにするための手術器械を開発中であり、2010年10月頃には、開発を完成して、この手術器械について特許出願をする予定であった。

以上の事実を前提として、次の問いに答えよ。

- 1) A氏は、Q大学に対して、どのような根拠で、何を請求することができるか？
- 2) Q大学は、A氏の請求に対して、どのように反論することができるか？
- 3) 企業Pは、Q大学に対して、どのような根拠で、何を請求することができるか？
- 4) Q大学は、企業Pの請求に対して、どのように反論することができるか？
- 5) A氏、企業PおよびQ大学の間の紛争について、君は、どのような立法的解決を提案するか？理由を示して述べよ。